

# 日蓮門連だより

発行  
日蓮聖人門連会  
東京都大田区池上1-32-15  
〒146 電話(03)3751-7181

平成3年2月16日  
第10号

門連結成三十周年記念事業第二弾

## 京都理事會に於いて 記念講演會開催さる

平成のこの大慶を国民が奉祝したこの佳き年に、日蓮聖人門下連合会は結成三十周年の節目を迎えた。三十周年を記念し、恒例の京都理事會は、十一月二十八日(水)、本門法華宗大本山妙蓮寺にて開催された。

当日は、午前十一時より受付が開かれ、各地より関係者が集った。十一月二十八日とその日であるが、毎年だとコートなどを纏わないと寒さが身にしみる候である。しかし、なぜか今年は暖かい。会場の妙蓮寺境内にある桜が、開花している。一瞬目が疑った。



記念法要 大導師は本門法華宗管長  
大本山妙蓮寺貫首中村日宣宛下



掲げられた各派管長および  
各本山貫首宛下の揮毫



「門連30周年におもう」記念講演  
本法寺貫首金山日龍宛下



記念祝賀會 於：京都ブライトンホテル

の間に物故せられた先師四十六靈位に対し甚深の哀悼の意がつけられた。焼香は衆を代表して、本門法華宗宗務総長吉村信尚師、門連理事長伊藤通明師、京門連理事長松下日肆師、京門連副理事長藤田尚慈師のち

### 結成30周年！記念講演會

本紙にも既報のように、門連三十周年を記念する行事の柱の一つに記念講演會があった。三十周年を記念する大きな柱に位置づけられていた企画であった関係上、どのような規模と内容で実施されるのか、大きな期待が寄せられていた。

その期待に応えるためにも当日行われた記念講演の様子を報告しておかねばならない。まず、聴衆は当日集客の関係者約百名である。部外者の入場は無かったから、完全な内部講演であり、対外的な配慮はなかった様である。それと、講師は、最初に妙蓮寺貫首中村日宣宛下が「妙蓮寺の沿革」について話され、次に本法寺貫首金山日龍宛下が「門連三十周年におも」と題して所感を述べられた。

### 理事會から懇親の宴へ

少時休憩ののち、理事會に移りし座長には慣例により理事長が選出され就任。

座長挨拶が型のごとく行われ、事務局で用意された京都理事會次第が全員に配布された。次第の柱は、報告事項と案件である。

回し焼香により参集者全員が一香を手向けた。回向、帰依と式はすすみ、荘厳な記念法要も終りを告げ、式衆退場。ただちに本堂前において記念撮影が行われた。



門連結成30周年京都會議 平成2年11月28日於：本門法華宗 大本山妙蓮寺

### 從地涌出

☆「日蓮がたましいは南無妙法蓮華經にすぎたるはなし」(經王殿御返事) 經文に「我レ身命ヲ愛セズ但夕無上道ヲ惜シム」と示されているように大聖人は「無上道たる法華經を我が身に顕されていかれた」と主張された。

☆「汝早く信仰の寸心を改めて速に実乗の一善に帰せよ」(立正安國論) 大聖人の御在世の七百年前の鎌倉に於いて、色々の宗教があったが、世の中は良くならない。大聖人は「正しい法華經の教えに照らされて、信仰の心を正しく改めて、眞實の法華經(一善)に帰依せよ。そうすれば三界の世の中は仏國となりみな幸福になる。」

☆「信の弱きは濁るがごとし信心のいさよきは澄めるがごとし」(日嚴尼御前御返事) 心がいららしている時は、丁度水に小波の立つているようで、月は映りにくく釈尊の心に触れることはできない。しかし信仰心が深い時は、丁度水が澄んでいて月が映る。本仏釈尊の心が我々の心に映り、色々の苦悩が除かれる。

☆最近の世界情勢はめまぐるしく急変している。新しい宗教も色々起り、世の中を乱しているものもある。本化の大法を信する我々は、法華經の鏡に照らされて寸心を改め大聖人の御誓願を受け継ぎたい。

☆「如日月光明、能除諸幽冥、斯人行世間、能滅衆生闇」例へ小事であれ南無妙法蓮華經の心を以て一人一人が実践することによって、祖願は実現されていく。(鈴)



シリーズ門下御本山巡り①

日蓮本宗本山要法寺

「師敵道尊・給仕第一」。今に伝わる本山要法寺の命脈



“昭和の大修繕”で大屋根全面修復になった本堂・開山堂

要法寺は二位の法印日尊上人(高祖日蓮大聖人の法孫・日興上人の付弟)開山の興門派専門流の本山であり、永年にわたって王城の地であった京都の地に在る。現在は日蓮本宗に属している。

梨一葉

日興上人身延離山の時、常在給仕していた日尊上人も師に従って山を下り、河合、下の坊、大石などで数年を送られた後、永仁元年(一一九三)富士山麓の重須に移られた。この精舎が本門戒壇建立の根源・重須本門寺(北山本門寺)であり、日興上人はここで晩年三十六年間を布教と徒弟の教育に尽瘁された。日尊上人は師の膝下にあつて、給仕と研鑽に励んでおられた。時は正安二年(一一三〇)の秋九月、日興上人が御義口伝の講義をされていた最中、折からの風に庭前に舞う梨の枯葉にふと目を奪われた日尊上人、厳格な師日興上人は、すべての人々の執成しも聴き入れられず日尊上人に勘当を申しわたされた。わが尊門の「師敵道

はじめに

尊」はこれに端を発している。

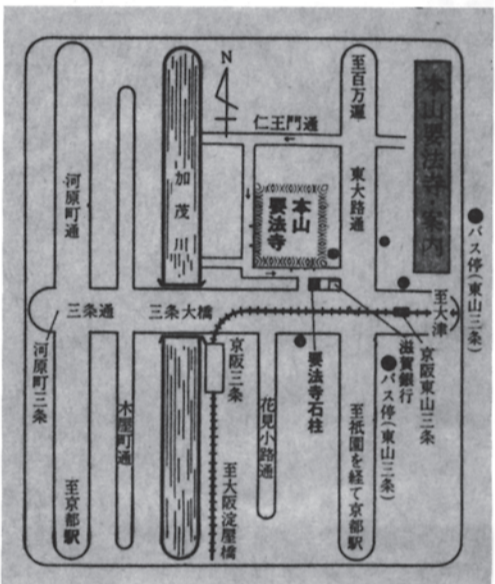
全国弘通十二年

この日より日尊上人の懺悔滅罪全国弘通行脚が始まった。西は石見の国(鳥根県)・安芸の国(広島県)から東は外方浜(青森県)まで足跡を残され、堅忍不拔、死身弘法の十二年を過ごされた。この間に王城の地(京都)に法華堂を建立、これを以て本山要法寺の濫觴とするのである。十二年間毎年十月十二日高祖日蓮大聖人御正當御遠夜には重須本門寺本堂庭前に日尊上人の姿がいくらかからともなく現れ、庭前石(現存)に日尊上人御腰の石に終夜坐して報恩の読経唱題をされ、十三日の明け方にはいづくへともなく去っていかれた。ここに尊門の「給仕第一」の姿がある。

三十六カ寺の新寺(帰依改宗を含む)建立の偉業の功に、日興上人は勘当を許され三十六幅の本尊を日尊上人に授与されたといえられている。

天奏の宿願成就

天奏は高祖日蓮大聖人の遺命であり、門下僧の悲願であった。元弘三年・北朝正慶二年(一一三三)日興上人は重須本門寺で世寿八十八歳で御入滅、日興上人は日目上人に「法華経本門の教義」天奏を命じられていたので、日目上人は日尊、日郷両上人を伴って、この年の十一月京都に向かわれたが、十五日美濃の垂井(岐阜県不破郡垂井町)で急な病のため志を果たすことなく入滅された。



日蓮本宗本山要法寺への経路

建立するとともに、七箇之誠條(遺誡)を示した。弟子日尹・日大両上人に後事を託して、翌貞和元年(一一三三)五月八日、世寿八十一歳で鶴林に入ら



重要文化財 渡金蓮唐草透 刻経 篋

日尊・日郷両上人は日目上人をこの地(現日蓮本山)に聖跡御茶毘所跡に茶毘に付し、舍利を抱いて上洛、ひとまず鳥辺野に墓所を求めて納骨を済ませた。

上行院・住本寺併立

日尊上人は天奏を遂げるため王城の地にとどまり、日郷上人は日目上人入滅の悲報を伝えるために重須本門寺への道をとられた。翌建武元年(一一三三)春四月、日尊上人は後醍醐天皇・光明天皇に拝謁を許され、宿願の天奏を遂げた。天皇は御感、六角油小路に止住の地と紫の小袖とを賜るとともに、二位の法印に叙せられた。この六角油小路に建立の法華堂が上行院で、日尊上人はここに住して、教化布教と弟子の育成に努められた。康永四年・北朝興国二年(一一三三)鳥辺山に坊舎(現実報寺)を建て、自ら一遍首題をしたためた逆修塔を

寺名を「要法寺」と新称

天文法華の乱後、法華宗の京都遺住は容易に許されなかったが、天文十七年(一五四八)上行院・住本寺もようやく京都へ帰ることが可能になった。この時両寺は合併して新たな「要法寺」と名乗り、堀川綾小路に再興ということになった。十三祖中興広蔵院日辰上人の代である。この地にあること僅か四十余年、天正十九年(一五九一)豊臣秀吉の町割り(都市計画)によって、寺町二条へ強制移転させられた。十四祖日尊上人の代のことである。約百二十年後の宝永五年(一七〇八)三月の大火で要法寺も類焼し、八月、現在の東山三条の地に移転した。堂宇の建築

雑乱勸請は嚴戒

高祖日蓮大聖人立教開宗の本義に基づいて、法華本経及び開結の二経

の計十巻を所依の經典とし、とくに方便・寿量の両品を誦誦助行の正とし教義を広めている。本尊の奉安式は、二祖日興上人、開山日尊上人の御遺訓に従い、高祖日蓮大聖人尊定の文字所頭「大曼荼羅御本尊」を定式とし、その前に高祖日蓮大聖人読経の御尊像を安置することが出来ると定めて、他諸尊の安置は雑乱勸請として堅く戒めている。御本尊の拝写と開眼、高祖日蓮大聖人御尊像の開眼、それらの授与と僧侶にたいしての日号補任の大事は唯受一人血脈相承の職に有る貫首のみに限り、血脈相承の補処である大学頭にも許されていない。

おわりに

歴代の貫首には学僧、傑僧も多いが、広蔵日辰、円智日性、三妙日生の各上人は特に著名である。「師敵道尊・給仕第一」は本山要法寺の命脈として永く伝えられよう。

21世紀へ豊かさを運ぶ——とうきゅうグループ

豊かな感動のステージへ

国際的なイベントに参加する... 憧れのリゾート地で優雅な時を過ごす... 未知なる地をじっくりと探訪する... そんな旅のトレンドとお客様のニーズを、魅力あふれる商品開発とサービスに活かして、東急観光は、豊かな感動のステージを、提供します。



▲スペイン・トレドにある美術館。スペインでは、1992年4月20～10月12日セビリア万国博覧会、1992年7月25日～8月9日バルセロナにおいて夏期オリンピックが開催されます。またコンブス新大陸発見500年祭(1992年)の準備も進んでいます。

東急観光 東京都目黒区東山3-8-1 東急観光大橋ビル5階 ☎03(5704)3760

# 躍進!! 門下連合会



## 日蓮宗宗務院

管 長	岩間 日勇	教務部長	石井 隆教
宗務総長	伊藤 通明	護法伝道部長	石川 浩徳
宗務副総長	佐藤 光春	現代宗教研究所長	石川 教張
総合企画部長	岩間 湛正	参 与	白部 健順
庶務部長	二宮 将泰	参 与	岡田 法順
財務部長	田中 恵康	日蓮宗新聞社社長	菊池 泰瑞

〒146 東京都大田区池上一丁目三十一番五  
電話 〇三(三)七五(一)七二八(代)  
FAX 〇三(三)七五(一)七一八(六)

## 法華宗(本門流)宗務院

管 長	久保木 日秀
宗務総長	川口 善教
教学部長	木村 日應
庶務部長	大塚 正信
教化部長	中村 宏龍
財務部長	芹澤 泰謙

〒170 東京都豊島区北大塚一丁目二六番四  
電話 〇三(三)九一(〇)四七五(代)  
FAX 〇三(三)九一(八)七九九(四)

## 顕本法華宗宗務院

管 長	古瀬 日宇
宗務総長	吉永 正晴
宗務次長	山田 信正
財務部長	飯澤 道宣
布教部長	山本 学人
教務部長	平田 浄應
社会部長	田島 敏義
庶務部長	島田 幸晴

〒606 京都府京都市左京区岩倉幡枝町九一  
電話 〇七五(七)九(一)七一七一

## 法華宗(陣門流)宗務院

管 長	野口 日桂
宗務総長	牧野 琢成
総務部長	土屋 善敬
教学部長	都築 哲信
教化部長	金原 戒雄
財務部長	江坂 隆俊

〒170 東京都豊島区巢鴨五丁目三五番六  
電話 〇三(三)九一(八)七二九(〇)  
FAX 〇三(三)三五(七)六〇(二)

## 本門佛立宗宗務本庁

講 有	梶本 日裔
講 員	小山 日幹
宗務総長	井上 日慶
宗務副総長	齊藤 日敬

宗務本庁役員一同

〒602 京都市上京区御前通一条上ル東笠町二〇番地  
電話 〇七五(四)六一(一)一六六(代)  
FAX 〇七五(四)六四(五)五九九(九)

## 日蓮本宗宗務院

管 長	嘉儀 日有
宗務総長	住友 顕一
教学部長	今村 要道
法務部長	矢田 尚義
財務部長	矢田 尚義

〒606 京都市左京区新高倉通孫橋上ル法皇寺町四四八  
電話 〇七五(七)七(一)三三三(九)〇

## 法華宗(真門流)宗務庁

管 長	上田 日源	参 与	吉田 勝秀
宗務総長	吉田 研宏	参 与	小島 玄城
総務部長	長鎌 泰信	総務主事	上田 浩岳
教学部長	上嶋 智岳	教化主事	岩崎 峻暉
教化部長	左神 信学	財務主事	笹木 研秀
社会部長	蓑輪 溪玉	教学主事	矢放 真文
財務部長	小西 法明		

〒602 京都市上京区智恵光院通り五辻上ル紋屋町  
電話 〇七五(四)四(一)五七七(六)二

## 本門法華宗宗務院

管 長	中村 日宣
宗務総長	吉村 信尚
宗務部長	信隆 允忠
財務部長	山下 通雄
総務部長	藤井 宏長
庶務部長	飯田 信栄
教化部長	高辺 誠亮
教務部長	木村 光紹

門連帯任理事

〒602 京都市上京区寺ノ内通大宮東入妙蓮寺前町八七五  
妙蓮寺  
電話 〇七五(四)五(一)三三三(五)二二七

## 宗教法人 国柱会

会 長	田中 香浦
理 事 長	加倉井 清信
副 理 事 長	中平 千三郎
門連帯任理事	大橋 邦正

〒132 東京都江戸川区一之江六一一九一八  
電話 〇三(三)六五(七)一一(一)代  
FAX 〇三(三)六五(六)九九(八)〇

## 京都日蓮聖人門下連合会

会 長	沖 日亨
副 会 長	古瀬 日宇
理 事 長	藤田 尚慈
副 理 事 長	山田 信正

京門連事務局  
〒602 京都市上京区小川通寺ノ内上  
本法寺内京都府第一部宗務所内  
電話 〇七五(四)五(一)九三九(〇)

## 日本山妙法寺

首 座	上野 行量
長 老	塙 行幸
長 老	石山 善邦
日印サルボツ交友 会会長兼発行編集人	今井 行順
天鼓出版発行編集人 日本山妙法寺事務局	松谷 被鎧

東京都渋谷区神泉八一七

〒542 大阪府中央区南船場一丁目三十一番  
電話 〇六(二)六(一)三三三(六)

# 躍進!! 門下連合会

## 日蓮宗総本山 身延山久遠寺

〒409-25 山梨県南巨摩郡身延町身延  
 電話 〇五五六六(二)一〇一  
 FAX 〇五五六六(二)一〇九四

法主 岩間 日勇  
 総務 藤井 教雄  
 役員一同

## 日蓮宗大本山 池上本門寺

〒146 東京都大田区池上一一―一  
 電話 〇三三七五(二)三三三二

首 田 中 日 淳

## 顕本法華宗総本山 妙満寺

〒606 京都府京都市左京区岩倉幡枝町九一  
 電話 〇七五(七九)七一七一  
 FAX 〇七五(七九)七二二六

執 執 執 執 執 執 執 執 執 執  
 事 事 事 事 事 事 事 事 事 事  
 安 津 三 平 山 務 主 古  
 東 村 坂 田 山 務 主 古  
 靖 乘 岳 田 田 瀨 古  
 弘 信 應 正 信 日 宇

## 法華宗(陣門流)総本山 本成寺

〒955 新潟県三条市西本成寺一―一  
 電話 〇二五六(三)〇〇〇八

執 執 執 執 執 執 執 執 執 執  
 事 事 事 事 事 事 事 事 事 事  
 佐 平 西 笹 真 野 首  
 古 井 山 原 保 口 野  
 弘 良 英 壯 行 日 野  
 文 光 仁 玄 宣 桂

## 法華宗(真門流)総本山 本隆寺

〒602 京都市上京区智恵光院通り五辻上ル紋屋町三三〇  
 電話 〇七五(四四)一五七六  
 FAX 〇七五(四四)一五六六

執 執 執 執 執 執 執 執 執 執  
 事 事 事 事 事 事 事 事 事 事  
 補 事 事 事 事 事 事 事 事 事 事  
 矢 笹 岩 小 上 主 上  
 放 木 崎 島 田 田  
 真 研 峻 玄 日 日  
 文 秀 暉 城 源

## 本門法華宗大本山 妙蓮寺

〒602 京都市上京区寺之内通大宮東入妙蓮寺前町八七五  
 電話 〇七五(四五)一三五二

執 執 執 執 執 執 執 執 執 執  
 事 事 事 事 事 事 事 事 事 事  
 中 村 日 宣  
 松 下 日 肆  
 役員一同

## 日蓮宗本山 要法寺

〒606 京都市左京区新高倉通孫橋上ル法皇寺町四四八  
 電話 〇七五(七七)一三三九

執 執 執 執 執 執 執 執 執 執  
 事 事 事 事 事 事 事 事 事 事  
 矢 今 住 丹 嘉 首  
 田 村 友 治 儀 嘉  
 尚 要 顕 日 儀 嘉  
 義 道 一 遠 有

## 本門佛立宗本山 宥清寺

〒602 京都市上京区一条通七本松西入滝ヶ鼻町一〇五  
 電話 〇七五(四六)三二四六  
 FAX 〇七五(四六)三二四六

住 十九世 職 梶 本 日 裔  
 事務局長 小 倉 徳 治 郎  
 信使総代

立教開宗之靈地  
出家得度

## 日蓮宗大本山 清澄寺

〒299-55 千葉県安房郡天津小湊町清澄  
 電話 〇四七〇(九)四〇五二五

別 当 小 林 日 芳

## 日蓮宗大本山 妙顕寺

〒602 京都府京都市上京区寺之内堀川東入  
 電話 〇七五(四一)四〇八〇

執 執 執 執 執 執 執 執 執 執  
 事 事 事 事 事 事 事 事 事 事  
 山 田 一 光  
 原 光 司

## 日蓮大聖人御靈跡 本圀寺

〒607 京都府京都市山科区御陵大岩町六  
 電話 〇七五(五九)三九一九

勅諭にて京都に移遷の松葉ヶ谷草庵の靈跡

首 水 谷 日 諦

## 日蓮宗大本山 北山本門寺

〒418-01 静岡県富士宮市北山重須  
 電話 〇五四四(五八)一〇〇四

執 執 執 執 執 執 執 執 執 執  
 事 事 事 事 事 事 事 事 事 事  
 片 山 日 幹  
 田 中 慈 潮

## 日蓮宗大本山 法華経寺

〒272 千葉県市川市中山二―十一  
 電話 〇四七三(三)四三三三

執 執 執 執 執 執 執 執 執 執  
 事 事 事 事 事 事 事 事 事 事  
 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同  
 渡 広 植 新 小 関 首 長  
 辺 野 田 井 倉 瀬 長  
 行 観 観 智 俊 観 日  
 俊 順 泰 清 明 康 還

## 久遠成院日親上人御靈窟 日蓮宗本山 本法寺

重文涅槃図長谷川等伯筆  
 名勝巴の庭本阿弥光悦作

〒602 京都府京都市上京区小川通寺之内上ル  
 電話 〇七五(四四)一七九九

首 金 山 寛 成

## やくよけ祖師 日蓮宗本山 堀之内 妙法寺

〒166 東京都杉並区堀之内三―四八―八  
 電話 〇三三三(三)三三三三

山 主 駒 野 教 格

※平成三年度隨身生募集中

## 日蓮宗本山 頂妙寺

〒606 京都府京都市左京区仁王門通川端東入大衛町九六  
 電話 〇七五(七七)一〇五六

執 執 執 執 執 執 執 執 執 執  
 事 事 事 事 事 事 事 事 事 事  
 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同  
 川 藤 山 新 土 首 金  
 合 井 田 井 屋 子  
 二 之 部 陽 照 完 智 学 光  
 知 陽 源 修 清 周 瑩  
 孝 雄 源 修 清 周 瑩

# 門連時報

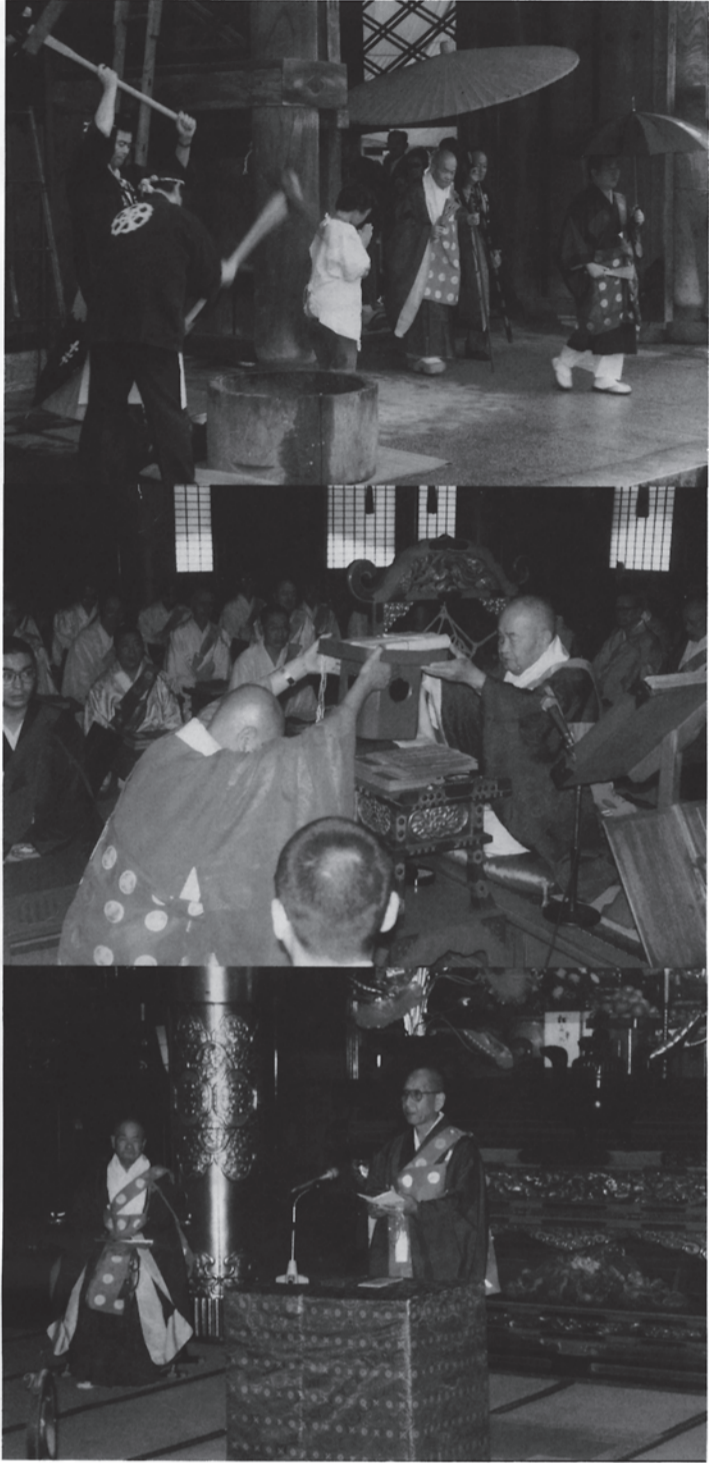
## 更なる飛躍を。北海道門連

平成元年十一月十五日、地方門連組織として第三番目に発足した北海道日蓮聖人門下連合会は、白部健順理事長のもと、札幌、小樽地区を中心として、活発なる交流活動を展開している。

特に、日蓮聖人門下連合会との協力、団結及び連絡をより一層強化する目的のもと、身延及び京都の理事会には、白部理事長並び役員が必ず

## 野口日桂猥下御入山

平成二年十月八日、新潟県三条市法華宗陣門流総本山本成寺に於いて、野口日桂猥下が本成寺第八十四世の法燈を継承し、併せて法華宗陣



野口日桂猥下御入山

## 日本山藤井日達上人七回忌

平成三年一月九日、日本山妙法寺に於いて開山導師藤井日達（行勝院

## 紙の紹介

4



◎「真世界」は月刊で発行されており機関紙としての歴史は古い。本年一月号で通巻六、〇二二号となる。田中智学先生が純正日蓮主義在家教団の創業時明治二十四年刊行の「師子王」以来、「妙宗」「日蓮主義」等タイトルは変更されたが、大正九年から約二十年間「天業民報」という日刊新聞の時代があるので六千号という数字になった。戦後は「真興」から昭和

二十五年「真世界」となった。◎日蓮主義、日本国体の思想を宣伝し広布する主張誌・紙が一宗教教団によって発足当初から百年以上にならざるに継続発行されてきたことは特筆すべきことだろう。◎昭和五十五年から真世界運動の機関紙として一般書店にも配本された。表紙には、次の真世界運動「主張」が掲げられている。地上に人類が発生して以来、戦争とともに歩んできた「前史」は終りを告げ、今やすべての人間が、

地球というひとつの宇宙船のなかで、平和に暮してゆく「人類の本史」が訪れようとしている。この新しい時代に必要なものは人間の意識と思想の変革である。「円融統一」の真理にもとづき自他、物と心、人間と自然、宗教と科学が一如する「真世界」の創造をめざして前進しよう。◎一月号には田中智学先生の「世界人類のゆくえ」を掲載、特集は「日本が危い」。聖なる路をひらくべく常に社会啓蒙をめざしている。連載は、立正安国論評読、日蓮主義実践講座、未来を拓く向上心、仏教の話あれこれ等若き世代にも読みやすいように編集されている。◎教学研究誌としては昭和四十三年より「日蓮主義研究」が発行されており現在十四号を数える。

宇管長、吉永正晴宗務総長、法華宗真門流からは上田日源管長らが参席し、伊藤理事長より野口日桂猥下に對し祝辞が述べられた。

日達）聖人第七回忌法要が熱海市にある日本山妙法寺熱海道場で厳修され、日蓮聖人門下連合会からは伊藤通明門下連合会理事長が参列焼香された。

式は晴天にも恵まれ、広い道場には五百名を越す信徒にまじり、インド・スリランカをはじめとする各国大使館来賓の姿も見られ、日蓮聖人生前の活躍の広さがうかがえた。当日の寒さも何するものぞと道場内には「南無妙法蓮華經」の大音声響き渡り、午前十一時に始まった法要も終了を見たのは三時を過ぎ、終りに身延山久遠寺総務藤井教雄僧正をはじめとする挨拶、諸外国よりのメッセージの紹介等があり、国際色の強い日本山ならではの法要も厳肅の内に終了した。

\*\*\*\*\*

「日蓮聖人門下連合会30年の歩み」の記事一部訂正 95ページ下段11行目誤……昭和三十八年の規約改正では、理事長は日蓮宗からとなりました。正……昭和三十八年の規約改正では、理事長は理事の互選が原則ですが、当面して日蓮宗からとなりました。右の傍点分が脱落してしまいましたのでお詫びして訂正します。

日蓮聖人門下連合会  
門連30年の歩み編集委員会

## 昭和天皇御宸筆「立正」金箔額入

昭和天皇より下賜された「立正」額（実物大四分の一に縮尺複製したものです。）  
皆様のご家庭へ特別頒布  
頒布金額 色紙共  
八千五百円（送料共）  
（残部僅少）

# 立正

お申し込みは 日蓮宗新聞社 電話 03-3755-5271(代) FAX 03-3753-7028  
〒146 東京都大田区池上6-19-1

# 各派・教団 短信



## 法華宗門流

院学生講座開催

【三宗統合学院学生講座開催】11月17日・18日・19日の三日間にわたり、法華宗門流宗務院内陣門講堂を会場に、三宗統合学院学生講座が開催された。講師として、法華宗門流村上東源上人が最近の仏教学・日蓮教学の問題点・八宗綱要・インド社会宗教について講義をされた。

【平成2年10月30日・11月1日の両日、法華宗総本山本成寺に於て総本山第八十三世水本日蓮現下の御通夜、御本葬儀が厳粛に執行された。30日御通夜は、宗務総長を導師に全国の有縁寺院方の読経と共に、三条市内各題目講中の御題目太鼓が続く。翌11月1日本葬儀は、全国より有縁寺院八十数名が出仕、穩尊の御生前を慕う地元及び全国の檀信徒が三千数百名程参列する中、御遺骸日蓮現下御導師の下管された。葬儀には、来賓として日蓮宗池上本門寺貫首田中日淳現下、顕本法華宗々務総長吉永正晴台下が臨席され、弔辞を述べられた。又身延山久遠寺法主岩間日勇現下・国柱会田中香浦先生の弔辞もそれぞれ代読された。他にも本宗々務総長・教区長・学林長・宗会議長・宗学研究所々長などの弔辞が読まれた。葬儀に引き続き御遺骨は、御遺骸下自らの御手で丁寧に本山御歴代御廟所に納められた。参列した誰もが日蓮現下の御遺徳の深さを思い、生前受けた恩に感謝し、そしてそのあまりにも早過ぎた永遠の御別れを悲しんだ。ここに慎んで御冥福を御祈り申し上げます。(鈴木昭雄)

## 日本山妙法寺

【8月6・9日 東京―長崎平和行進終了。広島長崎で慰霊法要。24日西天開教記念法要。全山会議を熱海道場で行う。25日身延山参詣。印度ボンベイで平和行進。】

【9月1日ベルリンで8月6日よりの断食を大衆と無事終了。】  
【10月2日ガンジイ生誕日法要。九段道場にて12日池上本門寺参拝。21日ダーズリン仏舎利塔御経石奉安。】  
【25日印度竹林精舎法要。多宝山宝塔21周年記念法要。26日バイシリア大法塔に仏舎利奉安式を行う。28日オリッサ仏舎利塔18周年記念法要。】  
【11月3日マナリ仏舎利塔地鎮祭。】  
【奥多摩仏舎利塔の前に玄霊宝塔開眼式。6日米國平和行進は七ヶ月間歩き続け無事終了。】  
【12月1日より8日迄臘八接心断食各道場にて決行。】

## 本門法華宗

【本年4月13日、14日の両日におたり日蓮菩薩六百五十遠忌大法要を迎えるにあたり、その記念事業として進められていた方丈と表書院の大屋根葺き替え、畳替え等の工事が完成し、本堂内外の改修、境内の整備も完了、御遠忌法要を待つのみとなった。またこのたびの御遠忌記念出版として永井日揮現下の「四教儀講説」が出版される。】  
【去る12月14日、15日の両日大本山妙蓮寺に於て、第58回教学講習会が開催された。特別講師として立正大学北川前教授を招き「祖書に聞く」の講義がなされた。】  
【去る12月19日、本門法華宗学院長尾崎日慈上人(京都本妙院)九十一歳にて遷化される。(持地光学)】

## 法華宗本門流

【第四回法華宗教学研究発表大会が、昨年11月21日、尼崎「サンジビックホール」において開催された。興隆学林学監三浦成雄教授の基調講演「宗門史私見」に始まり、十名の発表者が日頃の研究を発表した。】  
【大本山鷲山寺では、昨年11月12・13日の宗祖御会式に併せ宗祖御厨子改修法要が修行された。鷲山寺の宗祖御尊像は、大聖人自らが開眼された等身大の御木像であり、相山光長寺同時二祖日蓮聖人作の一木三体の御尊像と称されている。】  
【本年は「法華宗昭和法難五十周年」の記念の年にあたり、これを顕彰すると共に将来に活かすために顕彰会

## 日蓮宗

【北米開教75周年を記念して9月28日より10月9日までの12日間「お題目総弘通運動、北米日蓮仏教団創立75周年、岩間日勇尊長御親教」が、日本より百名の団員が参加して行なわれた。記念法要は9月30日、シアトル日蓮仏教会(及川玄一主任)で、岩間管長導師のもとに、三百人の信者が参列し盛大かつ荘嚴のうちに厳修された。10月2日は、会場を日蓮宗妙覚寺サンノゼ別院(松田龍昭主任、北米開教区長)に移し、岩間管長導師のもとに、盛大に奉行された。本宗の開教布教は、ひとつの節目を迎え、新たな活動を目ざし、松田開教区長が中心となり活躍が期待される。】  
【11月19日(日)、宗門先師法要が、池上本門寺にて、岩間管長導師で行なわれた。本年の先師は二百二十九名、遺族はじめ関係者二百五十名が参列した。この後、朗峯会館で法宴があり、先師のありし日を偲んだ。】  
【1月10日宗門恒例の御用始が三百名の宗門要路の方々が参加し、朗峯会館にて行なわれた。(望月康史)】

## 国柱会

【昭和天皇の御製「普及運動を引続き展開。10万部を達成。】  
【6月16日、東京の日本青年館で田中智学門下青年協議会主催で「大嘗祭とは何か」をテーマに講演会。】  
【8月、天皇陛下御即位御大典奉祝事業として真世界特別号「日本の天皇」を発行、普及運動展開。11・13日、河口湖にて全国若人の集い富士大会。】  
【9月14・16日、国柱会本部で日蓮主義の基本を学ぶ講習会】

## 顕本法華宗

【秋場善弥】  
【10月24日・25日、第12回日什門流懇和会開催。静岡県伊東市の妙隆寺を会場に、先師御報恩法要並びに、早大講師の窪田哲正師を講師とした教学講習会が開催された。】  
【本年は開祖日什大正師の六百遠忌御正當を迎え、御報恩記念事業が宗内一丸となり、全力をあげて推進されている。就中、什祖伝映画の製作、御開山絵伝、顕本法華宗年表等の記念出版も間近。また2月28日の御正當には、総本山妙満寺に於て宗内全僧員による御報恩法要に併せ、全国檀信徒護法大会が開催される。尚来る4月13日・15日には御遠忌大法要の予定。(秋葉敬真)】

## 日蓮本宗

【本山要法寺貫首の補処である】  
【高祖日蓮大聖人御大会式当日、御法要に先立って、現董嗣法五十一祖嘉儀日有現下から唯受一人「血脉相承」が丹治日蓮師になされ、大寺頭就任の報告法要が法中寺院住職、教師のもとより全国から檀信徒多数が参列して厳修された。新進気鋭の大学頭就任は宗山発展の一石である。】  
【今年も住職の永年にわたる教化が実を結び、一ヶ寺の本堂が新築建立なり、去る11月25日(日)落慶法要

## 法華宗真門流

【全宗門の僧俗一体となって、お迎える「日蓮菩薩六百五十遠忌」の法要日程を次の通り決定した。】  
【4月13日、琵琶演奏「帝都弘通御遺言の場」。曲師、柴田旭堂師。門末檀信徒結集合唱題行。日蓮菩薩六百五十遠忌速夜法要。門末檀信徒の夕べ。】  
【4月14日、特別回向法要。稚児練り行列、歌題目奉納。日蓮菩薩六百五十遠忌大法要。御遠忌御親教・廟所報告参拝。】  
【4月15日、千部会法要・御開山御命日法要。総本山本隆寺歴代年忌法要。】  
【初転法輪(新説式)挙行する。10月13日、高祖日蓮大聖人御正當御会式法要に引続き、平成2年度の新説式を執行。今年度は、西田毅誠師(奈良日宝寺内)越智諦典師・山路諦淳師(能登慈照寺内)の三師が古来の作法に則り、高座説教を多数の参詣を前に、能化者として初めて実践。】  
【東山末生流華展が開催される。11月3・4日の両日、総本山本隆寺に於いて、総本山家元の華道、東山末生流の華展が開催された。本堂、客殿、方丈会館と第5席まで設けられ両日多数の入場者で終日賑わった。また新師範十五名の伝授式が行われ今後の発展が期待されている。(吉田勝秀)】

## 日蓮聖人門下連合会

●目的  
本会は日蓮聖人の理想を実現するため、祖廟を中心として門下各派及び教団並びに地方門下連合会の連絡、協力、団結を強化することを目的とする。

●事業  
本会は前条の目的を達成するため、左の事業を行う。

1. 祖廟護持の組織強化
2. 教育事業の提携
3. 布教の連合強化
4. 懇談会・研究会・講演会等の開催
5. 各種出版物の刊行
6. 海外布教の提携及び交流
7. 対外的な各種の運動
8. その他

## 加盟団体

- 日蓮宗 法華宗本門流
- 顕本法華宗 法華宗門流
- 本門佛立宗 日蓮本宗
- 法華宗真門流 本門法華宗
- 国柱会 日本山妙法寺
- 京都門下連合会

## るつうぶん

【平成三年一月に発行予定の「門連だより」が、大巾に遅れてしまいました。】  
【\*宗務が重なり、気になつていながらできなかったもので、申し開きもできまい。\*昨年十一月、京都妙蓮寺での三十周年記念法要は大成功であった。立派な記念誌と、編集委員会への感謝状は、思いがけずのことで、うれしいことと同時に、恐縮している。それにしても、編集委員各聖の努力はもろろだが、それにまじり、大橋常任理事、相沢委員には、お世話になった。責任者とはいえ本當に御苦勞様でした。\*しかし、三十一一年目からの門連はどうするか、これから目標を定めていくべきだろう、そのための一助になればと思つている。(康)】